

茨城県国際理解教育推進協議会
会長 石川 哲夫 殿

ワールドキャラバン国際理解教育実施報告書

学校名かすみがうら市立新治小学校

担当教諭名 菱沼 淑恵

「ワールドキャラバン」国際理解教育については、下記のとおり実施しましたので報告します。

記

| | |
|---------------|---|
| 実施日時 | 平成21年12月 3日(木) 9:30 ~ 13:00 |
| 対象学年と人数 | 6学年 (22名) |
| 派遣講師名と出身国 | <ul style="list-style-type: none"> ・バンズラグチ バヤルツエツエ (モンゴル) ・キム ソナ (韓国) ・ジェフリー パーク (アメリカ) |
| 活動の内容 | <p>母国語の挨拶 自己紹介 モンゴル・韓国・アメリカの紹介(自然環境、学校、生活、遊び、民族衣装など) 質問タイム 講師の方とのふれあい給食</p> |
| コーディネーター | 坂本幸子 |
| 生徒・保護者等参加者の感想 | <p>ワールドキャラバンを体験して、アメリカの土地の様子をもっと調べてみたくなった。アメリカ・モンゴル・韓国の遊びをしていてとても楽しかった。韓国のお金が日本のお金に似ていてびっくりした。(児童)</p> <p>一番印象に残っていることは、韓国の服を着たことです。モンゴルのゲームは日本のおはじきによく似ていてちょっと不思議。韓国のゲームは楽しかった。(児童)</p> <p>日本と離れているところにあるのに、同じようなものがあったすごいと思った。例えば、モンゴルのくるぶしは、日本のおはじきによく似ている。他の国も日本との共通点があるのか調べてみたくなった。</p> <p>国によって学校の始まる時期が違うと言うことにすごくびっくり。アメリカでは、地震により被害が少ないのに、嵐による被害が多いと言うことが分かった。(児童)</p> |
| 先生の感想 | <p>外国の方と交流を進めていくうちに、子供たちの表情が生き生きとして、興味をもって話を聞いたり体験をしたりする様子がよく分かった。インターネットを使って調べ学習を5時間とった内容よりも、30分ずつの交流の中で得た情報が印象深く児童の中に残ったようだ。講師の方の話の内容や話し方が児童の興味を引くものであったこと、様々な道具や民族衣装、コインなどの具体物があったので、より理解が深まったのだと思う。初めての体験だったので、迷うことが多かったが、コーディネーターの坂本幸子さんに丁寧にアドバイスをいただけたので、大変心強く思った。来年は是非、もう少し早い時期に実施し、課題を作ることでできるように活用していきたい。また、各国30分という短い時間帯だったので、もっと十分に交流できる時間を確保したい。(担当教諭)</p> |

